



# すいか

苅田町青少年育成町民会議だより



新しいロゴマークが決まりました。「苅」の文字に見立てたピンクのバラの花が、大人が子どもを守っているようなデザインです。  
(くわしくは3ページ)

創立30周年を記念して、潮田玲子さんの講演会がありました。  
(くわしくは4ページ)

家庭の日・オアシス運動ポスターの部の会長賞です。  
(くわしくは3ページ)





# 平成とともに歩んだ町民会議が30歳に

## 創立記念式典で、新たな飛躍を誓いました



▶式辞を述べる三角会長

町田町青少年育成町民会議は平成元年7月14日に結成してから、平成30年に30周年を迎えました。

この30年間、町民会議は、未来を担う若者が健全に育っていくことを支援し、見守っていくという理念のもと、行政や町民の皆様と連携して、様々な活動を進めてきました。研修会、講演会、シンポジウムなどを定期的に開催するとともに、親子で楽しめるウォークラリーや木工教室、そうめん流し大会、オアシス運動の作文や絵画コンクールなどの事業を実施してきました。また、学校での朝の声かけ運動、夜間の見守り運動、イベントでの補導活動なども地道に続けてきました。

しかし、青少年を取り巻く状況

は近年、大きく変わっています。この30周年を契機として、町民会議の活動も時代にあったものへと変えていくことが必要だと考え、30周年事業として、町民会議オリジナルのロゴマークを作成することにしました。

11月24日には、ロゴマークのお披露目を兼ねて、記念式典を行いました。三角会長が「町民会議も新しい元号と、新しいロゴマークのもと、心機一転、新しい時代に柔軟に対応しながら飛躍してまいりたい」と式辞を述べた後、遠田町長、坂本議長、中島県民会議事務局長から来賓祝辞をいただきました。

その後、ロゴマークのお披露目と入選者の表彰を行いました。

また、平成30年度家庭の日・オアシス運動の作文、ポスターの入賞者の表彰を行いました。



# コンセプトは「活力、やさしさ、希望」

## ロゴマークは安東るりさんの作品に決定



ロゴマークの公募には町内外から19点の応募がありました。役員会で選考した結果、荻田町出身で京都府在住の安東るりさんの作品が選ばれました。

安東さんは、ロゴマークのコンセプトを「活力、やさしさ、希望」としたうえで、作成した意図を「大人が子どもをやさしさと包み込むイメージです。『荻』の文字に見立てたピンクのバラの花が、大人が子どもを守っているようなデザインです。やさしさから活力や希望が生まれることを願って、このようなロゴマークにしました」と話しています。

### ■ロゴマーク入賞者（敬称略）

▽最優秀賞 安東るり

▽優秀賞 永野優子・松本弘智

▽健全育成家庭部会特別賞 山田

恵美

▶ロゴマークの説明をする  
安東るりさん（右）

### ■平成30年度家庭の日・オアシス運動入賞者（敬称略）

#### ●作文小学生の部

▽会長賞 清水春花（南原小6年）

▽健全育成家庭部会長賞 玉井江

利花（馬場小6年）▽奨励賞 箕

田光希（南原小6年）・重松大誉（南

原小6年）・野依丈人（南原小6

年）・野田愛実（片島小4年）・三

宅希晃（片島小2年）・中島武大（片

島小2年）

#### ●作文中学生の部

▽県民会議奨励賞 高野美優（荻

田中3年）▽会長賞 森田光紀（荻

田中3年）▽健全育成家庭部会長

賞 郡山心結（新津中3年）▽奨励賞 春日風香（新津中1年）・大谷壮志（荻田中3年）・木下諒（新津中2年）・樋口知夏（荻田中3年）・横手雪乃（新津中1年）・三宅里佳（荻田中3年）・北野豊己（新津中2年）・井上華望（新津中1年）

#### ●ポスターの部

▽会長賞 一山夢羽（馬場小4年）

▽健全育成家庭部会長賞 縄本美

咲（馬場小4年）▽奨励賞 香原

美咲（馬場小4年）・小島帆花（馬

場小4年）・秋永知美（片島小1

年）・小松蓮（馬場小4年）・岩本

明樹（馬場小4年）

### 町民会議 30年のあゆみ

（平成）

元年 町民会議創立

2年 第1回ウォークラリー

3年 第1回風揚げカーニバル

9年 「みんなで歌おう」  
ふれあいコンサート

10年 10周年記念  
井上豊久氏講演

16年 親子ふれあい講座始まる。

16年 15周年記念  
秋山幸二氏講演

17年 第1回イカダ大会

17年 「夜回り先生」水谷修氏講演

21年 20周年記念  
宮本延春氏講演

26年 少年の主張福岡県大会  
荻田町で開催

31年 30周年記念  
潮田玲子氏講演



# 荏田町出身の潮田玲子さんが講演

## テーマは「失敗を成功に導く心の持ち方」



▲潮田さんが通った荏田幼稚園の園児が花束をもってかけつけてくれました。



▲バドミントン京都クラブの先輩である泉将弘さんとトークショーも。

2月9日（土）、荏田町青少年育成町民会議30周年、荏田町商工会議所青年部15周年の記念イベントとして、荏田町出身の元バドミントン日本代表、潮田玲子氏の講演会を共同開催いたしました。

当日は、ご家族や学校のバドミントン部の方など、開場前から長い列ができ、中には福岡市からという方もいらっしゃいました。講演では「失敗を成功へ導く心の持ち方」というテーマでお話して頂きました。

そんな大きな失敗をした後、オグシオとして最後の試合となる全日本選手権で優勝（5連覇）するまでの心境、試合での気持ちのつきり方など現役のアスリートにとって本当に参考になるお話でした。

荏田町からは潮田さんと同じく、日本代表として活躍したサッカードの大久保選手、昨年開催されたユースオリンピック陸上400メートルハードルで金メダルを獲得した出口選手と世界で活躍するアスリートを輩出しています。

今回、潮田さんの講演を真剣に聞く子どもたちを見て、夢を持って努力し、次世代のアスリートとして世界で活躍してくれる子が現れることを期待しました。

潮田さんの人柄なのかもしれませんが、世界で活躍した方を身近に感じられる素晴らしい講演でした。（松本）



# 親子で楽しく、作品づくり

## 子どもフェスティバルで木工教室

10月28日(日)、中央公民館で子どもフェスティバルがあり、今年も町民会議は「木工教室」を実施しました。

豊前市の「森の学校」の方々が学園で作った、たくさん材料を持ってきて、工作のお手伝いをしてくれました。

毎年、「木工教室」には多くの子どもたちが来てくれます。A



4サイズの板の上で「何を作ろうかな?」と皆ワクワクのようです。

「森の学校」の方が用意してくれたのは、木の枝や木材を小さく丸く四角く加工したもの、ガラスをくだいて角を取ったものなど様々です。

子どもたちは、この材料を楽しそうに選んで想像を膨らませます。神幸祭の後のため、山車を作る子どもが多かったですが、自分の部屋やリゾートの風景、秘密基地など立体的な物から、文字やモザイク調など平面的なものまで多彩な作品が出来上がりました。

小さい子どもさんは、お父さん、お母さんと一緒に工作して、グルーガンの使い方を習うなどして、親子でも楽しく過ごせたようです。(米盛)

## ママたちのつづやき⑪

### 親も子もはじめの一步

三月は旅立ちの日ですね。

先日は高校の卒業式でした。聞けばなぜか涙が出てしまう「仰げば尊し」。

当たり前に目にしていた我が子の姿が見えなくなる寂しさが込み上げてきます。旅立つ勇氣、手放す勇氣。決めた道を信じて背中を押します。親も子もはじめの一步! (MIWA)



### 寒い中、お疲れさまでした!

3月3日のふれあいマラソンはあいにくの雨でしたが、町民会議からも15人が沿道警備にボランティア参加しました。

## 編集後記

創立30周年記念として、荻田町出身の潮田玲子さんの講演会を開催することができました。町民会議だけではハードルが高かったのですが、荻田商工会議所青年部とタイアップすることで実現できました。開催に向け、一緒に汗を流してくださった青年部の皆様に感謝申し上げます。

潮田さんの講演で印象に残ったのが、「残された人生の中で、今日が一番若い」という考え方です。年を取ると、どうしても「昔はよかった」というニュアンスの自慢話が多くなりますが、それは、聞く人にとっては退屈なものかもしれません。例えば、人生の残りが少なかったとしても、今日が一番若いのだという思いで、夢に向かって、さらに進もうとする姿を見せることこそ、若者への最大のメッセージとなるのではないのでしょうかと、自戒を込めて思っています。(TAKE)

平成30年度すこやか編集委員  
編集長 今林 ユリ

照山 功  
米盛 理英  
駒谷 明  
濱田 嗣視  
諫山 眞一  
小野 剛史  
江藤 律子

編集・発行

荻田町青少年育成町民会議

すこやか編集委員会

☎ 093(434)9838



# 学校紹介 ～荏田町立南原小学校～

南原小学校は、全校児童383名です。学校教育目標「実践力に満ち、心豊かでたくましい児童の育成」の実現に向けて取り組んでいます。子どもたちや保護者、地域の方々の期待に応えられるように、「チームみなみばる」が全力を尽くして教育を推進しています。本校の特徴的な取り組みを3つ紹介します。



## 1. 異年齢の交流活動の取り組み

「誰かの役に立った」「人に喜んでもらえた」「相手から感謝された」「周りから認められた」などの感覚を持たせることは子どもたちにとって、とても重要なことです。そこで、南原小学校では、異年齢の交流活動の取り組みを通して、「人と関わることが大好き」「学校が大好き」といえる子どもたちを育てていこうと考えています。年下の子どもをお世話することで、自分が必要とされていることを感じるができる体験をさせるとともに、まわりの大人から認められる体験をさせていこうと様々な計画をしています。そして、「誰かの役に立ててよかった」「自分にはこんな力があるんだ」という感覚を持たせ、子どもたちの自己有用感を高めています。



【休み時間に1年生と遊ぶ6年生】

## 2. 活用力アップノートの取り組み

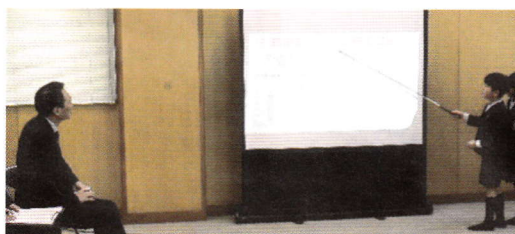
今求められている学力は変わりつつあります。そのひとつが「活用力」です。知識を「どれだけ多くもつか」ではなく「どう使うか」です。「活用力」を伸ばしていくためには、「知識をもとに課題を解決し、解決したことを表現すること」が大切です。そこで、家庭学習のやり方も変えていく必要が出てきました。漢字を「どれだけ覚えたか」ではなく、「習った漢字をどのように生かしたか」です。しかし、どのように取り組んでいけばいいのか、困ってしまう人もいるのではないかと考え、南原小学校では、学校で作成した「活用力アップノートヒント集」を持っています。一人一人が工夫していろいろな学習に取り組んで「活用力」を伸ばしていけるよう支援しています。ノートをさらに価値あるものにしていくのは、子ども自身の力です。そして、自分流のノート作りができたとき、間違いなく大きく成長したことになると考えています。



【南原小学校の活用力アップノートヒント集】

## 3. 社会科の授業改善の取り組み

本校では、国語・算数の授業改善だけでなく、社会科の授業改善にも力を入れています。本校の社会科は、知識や技能を使いこなすことが求められる「パフォーマンス課題」を昨年より位置づけているのが大きな特徴です。パフォーマンス課題とは、子ども自身が学ぶ価値を実感でき、子どもの意識や生活に寄り添った課題です。例えば、「水道料金をできるだけあげないためにはどうすればよいかについて上下水道課の人に提案しよう。(4年生)」「日本の自動車産業をさかんにするために、これからの日産自動車のキャッチコピーを考えよう。(5年生)」というようなものです。これまで、本校児童の学力の課題の一つに、記述力を高めることがありました。パフォーマンス課題を設定することで、「書きたい内容がある」「伝えたい意欲がある」ことにより、根拠を明確にした自分の考えを書くことにつながっています。



【町長にゴミ問題について説明する4年生】



【町長へ提案書を手渡す4年生】